

安全な生活(交通安全・不審者等) 指導のためのプログラム

<展開例>

1. 指導の機会
中学校 学年懇談会
 2. 対象学年等
第1学年保護者
 3. ねらい
各家庭で、自分の命は自分で守ることを再認識させる。
- (1) 題材 安全な生活(交通安全、不審者等)
- (2) 展開

時配	指導の流れ	指導上の留意点
5	1 導入	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffffcc;"> 各家庭でも安全な生活について考えましょう </div>	
20	2 展開	
	(1) 交通安全について考える。 ①子どもたちの体験アンケートを発表する。 ○クラスの中で自転車を乗っていて、「ひやっと体験」があったかアンケートの結果を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・急にとび出し、車にぶつかりそうになった ・横断歩道で左折する車にひかれそうになった ・車が交差点に突っ込んできた ②ワークシートを配布し自転車のルール・罰則について記入させ自転車の乗り方を考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に命に関わるような「ひやっと体験」があったか、それがどんなことなのか生徒にアンケートをとり、その結果をまとめておく。 ○資料はパワーポイントにまとめるなど、分かりやすいものを用意する。 ○大人も自転車のルールや罰則についておろそかになりがちであるので再認識してもらう。 ○社会のルールをきちんと教えることが家庭でのしつけの一環であることを強調する。 ○自転車による事故も罪に問われることがあるということを強調する。 ○未成年には罰金刑はないことを補説する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f7fa;"> <ワークシート例> ○自転車は車道が原則、歩道は例外 () 以下の懲役又は () 以下の罰金 ○自転車の二人乗りは禁止 () 以下の罰金 ○携帯電話をしながらの自転車の運転は禁止 () 以下の懲役又は () 以下の罰金 ○傘をさしながらの自転車の運転は禁止 () 以下の懲役又は () 以下の罰金 </div>	

(2) 不審者の対応について考える。

- 不審者と遭遇したとき子どもはどうか対応するのか
～親として子どもにどう指導すればよいか～
について、考えさせる。

<緊急時の対応例>

- ・大声で助けを求める
- ・近くの家に逃げ込む
- ・防犯ブザー（笛）を鳴らす

<予防策例>

- ・一人にならない（複数で登下校）
- ・夜中は独り歩きをしない
- ・知らない人と話さない、ついて行かない、車に乗らない
など

5

3 まとめ

- (1) 家庭教育支援資料「安全な生活（交通安全・不審者等）」を配布し、危険予知能力・危険回避能力についてワークシートにまとめる。

危険予知能力・危険回避能力とは

- ・これをやったら、ケガするかもしれないな
- ・危ないな
- ・この道は“夜、危ないから他の道を通ろう”など
→・考え行動する力
- ・自分の命は自分で守るという力

- (2) 安全面について大切なことを話す。
- (3) 生活安心メールの紹介をする。

- 学校でも指導しているが、是非、家庭でも具体的な例を話し合いながら指導をお願いしたいということを説明する。

- 小学生の時に繰り返し指導を受けている「いかのおすし等」について再認識させる。

- 不審者の特徴なども観察できると良いが、不審者対応については、「まず、自分の身を守る」ことが優先であることを強調する。

- この能力については家庭でも意識させるよう指導をお願いする。また、「自分の命は自分で守る」ということを強調する。

- 家庭教育支援資料「安全な生活（交通安全・不審者等）」について簡単に説明を加える。

- 携帯電話の「生活安心メール」の内容を拡大してみせる。